

自分のことが新聞に載ることなどないだろうと思っていた。ところが、意外にもそうでもなかった。今回は、1月22日（水）の福島民報新聞に、新刊書『人生は、燦燦と 校長室だより100選』を紹介していただいた。

民報新聞には、昨年も『表現者を育てる授業－中学校国語実践記録－』を紹介していただいている。取材の際には、そのことを話したほうがスムーズだろうと考え、拙著を持参した。すると、担当者は、ちゃんと昨年の記事のコピーを持ってきてくださっていた。ありがたい。

いつも思うのだが、こちらは聞かれたことに答えていく。そんなにうまくは話せていない。自分の考えや思いが果たして伝わっているだろうか心配になる。出来上がった記事を見る。見事に簡潔にまとめられている。お見事というしかない。今回は、こんな記事だった。

コラム「校長室だより」書籍化

福島市の笹谷幼稚園の高澤正男園長は、中高の校長を歴任中の5年間で書きためたコラム「校長室だより」をまとめた書籍「人生は、燦燦（さんさん）と 校長室だより100選」（文芸社）を刊行した。

「校長室だより」は伊達市の旧梁川高の校長時代の2019（令和元）年11月から、日々の思いや考えを同高のホームページ（HP）にアップ。その後、福島市の野田中校長でも同中HPに載せた。定年を迎えた昨年3月末には投稿数が計1000号を超えるまでに。書籍は100編に絞って収め、「生徒」「生き方」「言葉」など10のジャンルに分けた。現在は笹谷幼稚園の「園長通信」を同園HPに載せており、番外編として8編を加えた。

高澤園長は「読者の読後感を意識し、人生観や教育観、人を育てたい思いをつづってきた。多くの方の物事を考えるきっかけになってほしい」と話している。

1540円（税込み）で、福島市の岩瀬書店や西沢書店などで取り扱っている。

問い合わせは高澤園長 電話090（2366）2662へ。

新聞社の方はやはり違う。必要なことがすべて入っている。もっと詳しくも書けるが、書籍を刊行したという紹介としては、情報量はこのくらいであろう。文章が一定のレベルで整っている。でこぼこがない。プロだから当たり前なのかもしれないが勉強になる。客観的に情報を伝える文章を書くのは、そう簡単なことではない。この「園長通信」のようなエッセイとは違うジャンルの文章だが、参考になる。

取材日は金曜日だった。「いつ頃記事は出ますか」と聞いてみた。すると、「土日で読んで、月曜日に出稿して、火曜日か水曜日か木曜日には出ます」とのことだった。その通りだった。何より、土日に読んでくださるという、その姿勢に感心させられた。いい出会いだった。